

一月 一日 元旦祭	還暦祭	五月 四日	みどりの日祭	九月 日	秋分の日祭
一月 日 成人祭		五月 五日	こどもの日祭	十月 日	スポーツの日祭
一月二十三日 厄祓祭		六月 末日	夏越の大祓い式	十一月三日	文化の日祭
二月 十一日 建国記念日祭		七月第二土曜日 天王祭 育宮祭		同二十三日	勤労感謝の日祭
二月二十三日 天皇誕生日祭		七月第二日曜日 天王祭		十二月三日	例大祭 育宮祭
三月 日 春分の日祭		七月 日	海の日祭	十二月四日	例大祭
四月二十九日 昭和の日祭		八月十一日	山の日祭	十二月 末日	年越の大祓い式
五月 三日 憲法記念日祭		九月 日	敬老の日祭	* 日空欄は変動します	

(初宮詣・七五三詣・良縁子授け安産祈願・合格祈願・除災厄・交通安全・商売繁昌・工事安全・算賀祭等)
 (人形・結納品等の清祓い) (地鎮祭・井戸清祓・新殿清祓い・特別な祭場での神事等)

近鉄鳥羽駅一番出口下又はバスセンターよりかもめバス小浜漁協前行き約九分終点下車徒歩五分
 国道四二号 近鉄JR鉄道架道橋 東詰め左折 約四分 約一五〇
 駐車場無料 漁協小浜支所前 (参拝の旨神社又は漁協にお申し出下さい 場所指定あり)



飛島岩



祓い殿



丸一さん



蛙岩



鳥羽市小浜町里 33 番地
 〒517-0015 Tel.0599-26-2276



土宮神社

栗皇子神宮

御由緒

神道五部書の一「倭姫命世記」に 倭姫命（第十一代 垂仁天皇 第四皇女）は垂仁天皇二十五年三月
天照皇大神を伊勢の地に奉斎の後 翌年のご幸行の折 当小浜にお泊まりになり この地を

伊勢の神宮の御贄所とし 仕え奉る神を 淡海子神と名付け 社をお定めになった と記されています
この折 淡海子神（あわみこのかみ）が鎮まり座した社 が当神社の起原です

倭姫命御巡幸の後 幾度の遷幸を経て 粟皇子神宮 土宮神社（あわみこのかみのみや）つちのみやじんじや
と名を唱え 大土御祖神を主祭神に 合わせて十三柱の神を祀っております

御祭神

大土御祖神

蛭子神

石凝姥命

大山祇神

素盞鳴尊

倉稻魂神

大物主神

崇徳天皇

譽田別命

綿津見神

多岐津比賣命

菅原道真公

國狭槌尊

服島比売命

お願い事をするなら

神様に感謝する

隣人と環境に感謝する

隣人と環境に幸あれと祈る

お願い事を伝える

お願い事が叶うよう自らも努力する事を誓う

成就したらお礼に参拝する

飛鳥岩

淡良伎の嶋に在る神 飛鳥明神の鎮座地 小浜沖の八島を現すと伝えられています
飛鳥明神は淡海子神と添うて 伊勢の神宮 内宮の賀海神事を司った神です

「神宮雜例集」「内宮儀式帖」より

抜い殿

「倭姫命世記」にて倭姫命が宣り下された御教えの一 神を祀るの礼は清浄をもって
先となし に基づいた社です 身も心も清浄に抜いて下さいます
向かって右の社で 本殿参拝の前に参拝になると良いです

丸一さん

小浜のあご瀬から来訪し まるうと神としてとどまり 郷人から丸一さんと呼ばれ
慕われています 火伏（火災難除）のご神徳が伝承され 実際 昭和の大火の災時に
当宮と小浜埴氏子崇敬者を守った事実があります

蛙岩

さわってから帰路につくと 道中安全に無事帰宅できると言い伝えられています